

## お客さまの声を聴き、 お客さまの困りごとを形にする 顧客志向の経営で、 クランプ、次世代足場の トップブランドを構築

### お客さまと共に成長、躍進することを経営理念に掲げる

1957年(昭和32年)の創業時からプレス加工や溶接を業として、多様な製品を作り続けてきた平和技研が、パイプとパイプをつなぐ緊結金具:クランプの製造に参入し、メーカーとしての第一歩を踏み出したのは1984年(昭和59年)である。

クランプメーカーとしては後発であったが、現場でお客さまの声を聴き、それを素早く形にし、使っていただく、そうした中でより良い製品に仕立て上げていく、こうした“お客さまのために”と努力してきた経営姿勢が評価され、顧客の支持が広がっていった。現在では全国シェアが50%以上のトップブランドに成長している。

クランプに加え、2006年(平成18年)に生産を開始した、くさび緊結式足場も同様に、平和ファンに支えられ、くさび緊結式足場、とりわけ次世代足場ロックシリーズは全国の足場業者の高い支持を得ている。

建設現場での足場作業は、高所の作業であり常に危険が伴うものである。「作業に携わる人たちの安全をいかに確保しながら作業効率を高められるか、そしてお客さまに利益の上がる形で、いかに商品を提供できるかが勝負である。“お客さま目線”と“安全”と“コスト”の3点にこだわってやってきたのが平和技研である」と、内橋社長は言う。

同社の経営理念“平和技研の想い”には、「より良い製品、より良い価格提供、より良いサービスを念頭に置き、お客さまと共に成長、躍進していく」ことが掲げられている。

まさに、顧客志向でお客さまに寄り添い、お客さまと共に成長、躍進してきたのが平和技研と言える。

### ご要望に素早く対応できる営業・開発・生産の国内一貫生産体制、九州から全国へ

クランプ市場に後発参入した当初、「開発力、製造力、営業力も全て他社には到底及ばない。何倍も努力しないと追いつけない」と強い意志の元、愚直に努力してきた



クランプ



企業概要		DATA
企業名	平和技研株式会社	
代表者	内橋 幹雄	
所在地	北九州市八幡西区築地町15-3	
TEL	093-631-0804	
FAX	093-621-3558	
資本金	6,000万円	
創業	1957年	
従業員数	219人	
事業内容	建設用仮設金物製造・販売及びレンタル、鋼管足場用部材、パイプクランプ、壁つなぎ用金物、単管足場用単管ジョイント、固定ベース等、くさび緊結式足場用部材(次世代足場LOCKseries)、支柱、手摺、ブラケット、踏板等足場用荷揚機HEIWAラクターのレンタル	
URL	http://heiwa-giken.co.jp/	

ことが今日のトップブランドを築いたのではと内橋社長は言う。全く知見のない足場の世界、実際にクランプを使う足場工事の現場を訪れ、お客さまの声に耳を傾け、お客さまのご要望や困りごとをすぐに形にし、お使いいただいたという。試行錯誤や改良を繰り返し行いながら、喜ばれる製品を完成させていることが、技術とノウハウの蓄積にも繋がっている。

2000年代に入り、クランプメーカーの多くは海外生産に舵を切り、生産を海外で行って国内に製品を持ち込む体制に変わって行ったが、平和技研は北九州の本社工場での一貫生産にこだわり続けていた。これにより、高品質な製品を、納期の正確性や緊急時の対応力を持って可能にした。また、これまでの仮設業界の常識では、製造メーカーが直接ホームセンターと取引をすることはなかったが、この「生産力」と「売る力」を武器として、市場獲得に成功している。

現在、平和技研が販売しているクランプの種類は、農業用や家庭用も含め150種類以上と他社を圧倒、生産数は平均月150万個までになっている。営業・開発・生産が一体となって“お客さまのために”努力する姿勢が、多くのお客さまの心をとらえ、平和ファンを作り上げてきたことは想像に難くない。

### 次世代足場においては、揺れに強く、汎用性の高い足場として評価を得ている

建設現場の安全意識の高まりの中で、急速に市場を拡大しているのがくさび緊結式足場の一つ、次世代足場である。平和技研の次世代足場ロックシリーズは、高層建築などに使用される枠組み足場に近い揺れに対する安定感と、くさび式緊結足場ならではの利便性の両方を実現し、揺れに強く、汎用性の高い足場として評価を得ている。

平和技研の次世代足場ロックシリーズは、国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)の最高ランクに登録されている技術である。この技術のポイントは、くさび緊結部にある。パイプを支柱緊結部の中心に配置することで足場の揺れを大幅に抑えることに成功し、新しい形状のくさびは3か所でロックされる仕組みになっている。万一くさびが緩んでも抜けたり外れたりすることがないように工夫が凝らされている。これにより、足場の強度と安全性が向上する。また、一つ一つの部材が枠組み足場に比べコンパクトであるため、運搬コストのカットや保管面積の省スペース化などが可能になる等、高い顧客価値を実現している。こうした特性を活かし、建築工事や土木工事のほ



代表取締役社長  
内橋 幹雄 氏  
福岡県北九州市出身。  
1995年に実父が経営する同社に入社。本社工場にて製造部門を担当後、2004年に関東営業所の責任者に着任。専務取締役後、取締役副社長を経て2016年より代表取締役社長に就任。  
一昨年は、創立60周年を迎え、今後は100年続く企業を目指している。

か、ロックシリーズを使用したイベントステージ等の開発にも注力している。

### 足場用荷揚機ラクターを開発、トータルで足場施工の安全と効率化を推進

マンションやビルなどの中高層の足場施工は危険と大きな労力が必要になる作業である。また、少子高齢化が進み、労働力人口が減少する時代の中、平和技研は、足場の部材供給から施工環境、そのトータルで施工現場の安全や作業の効率化に貢献しようとする足場用荷揚機ラクターを開発、すでに全国で300台が稼働している。これを使うと通常10人かかる足場施工も4~5人で可能になり作業効率が格段に上がる。通常は、レンタル品として提供しており、顧客にとっては安全確保と大きな出費が抑えられることも相まって、好評を博している。



次世代足場ロックシリーズの足場とHEIWAラクター

最後に「現在は、建築や土木のイメージが強い製品を主力としているが、業界に捕らわれない製品創りやサービス提供にも力を入れていきたい。また、創業から60年以上が経ったが、「未来に残すこと」、将来若者が働ける企業、環境を残すことで、地元である北九州市に貢献していきたい」と内橋社長は語った。

### 取材を終えて

お客さまの声を聞き、お客さまの困りごとや要望を素早く形にしていくという顧客起点のマーケティングを貫き、お客さまに寄り添い、お客さまと共に歩んできた経営スタイルが、平和技研のオンリーワンを創り上げてきたと言えるのではなかろうか。